

International Exchange Lecturer of
Society of Economic Geologists

Dr. Stephen J. Turner



Stephen Turner 博士は、1979 年に University of Western Australia を卒業後、1986 年に University of Auckland で「フィジー共和国 Mt. Kasi における高品位の浅熱水性金鉱床の研究」で修士号、その後、1997 年に Colorado School of Mines において「ペルー共和国 Yanacocha 鉱床における高硫化型・浅熱水性金鉱床の研究」に従事し、博士号を授与されている。

Turner 博士は、現在 Newmont Mining 社のアジア太平洋地域のチーフジオロジストであり、西オーストラリアのパースを拠地としている。Turner 博士は同社において、西オーストラリア Telfer 金鉱床の開発、また、同地域 Eastern Goldfields の鉱床探査プロジェクトを通して、鉱床地質技術者としての経験を積み、その後、ソロモン諸島、フィジー、インドネシアなどの海外鉱床探査プロジェクトに従事した。特にインドネシアでは、Mesel 金鉱床のプロジェクトマネージャー、その後、東南アジア地域のチーフジオロジストを歴任し、この間に Newmont Mining 社は、Mesel 金鉱床、Batu Hijau 鉱床および Elang 斑岩銅-金鉱床の鉱床探査に成功している。

Turner 博士は、ペルー共和国 Yanacocha 金鉱床における博士論文の研究活動の後、数年間にわたり、中米～南米地域における鉱床探査プロジェクトにチーフジオロジストとして携ってきた。その後、2001 年に Newmont Mining 社のデンバー本部において、グローバル・チーフジオロジストとして、各地域の鉱床探査プロジェクトを指揮するなど活躍を続けた。2007 年、Turner 博士は、鉱床地質技術者のキャリアの出発点である西オーストラリアのパースに、チーフジオロジストとして舞い戻った。

Turner 博士は、これまでの多くの鉱床探査プロジェクトで得た経験を生かし、地域～広域、グローバルスケールに及ぶ、造山型金鉱床、浅熱水金鉱床、斑岩 スカルン型鉱床、OCG 型鉱床、漂砂鉱床、カーリン型金-銅鉱床の学術的なレビューを行ってきた。近年、博士が最も興味を抱いているのは、角礫化作用に関連した鉱化作用、高硫化型金鉱床、巨大スケールの金属鉱床、広域鉱床探査における有望性の判断基準と全体像の把握である。